

# ニーズに合わせた小回り製造で 支援後も主力商品の受注が順調

## 課題

### 主力のジグヘッドの 製造工程の見直しと機械開発

昭和55年、ドライバー工具の下請製造で開業した有限会社東雲化工。時代背景もあり、その後、プラスチック成形による疑似餌製造や非鉄金属の鋳物加工も手がけ、現在は、釣具メーカーの依頼により、オモリ付き釣針ジグヘッド、化学素材で作る疑似餌、オモリ単体を受託製造している。

おもな取引先は、兵庫県の伝統産業である播州釣針メーカーなど。売り上げの70%以上を占めるジグヘッドは、狙う魚によって種類が異なり、多品種小ロット生産になるが、同社はこれを積極的に受注し、顧客を獲得してきた。さらに、自社で設計・考案した製造設備のため、製造方法を柔軟に改善できることも強みだ。取引先に対して提案力があり、試作ロスが軽減されると喜ばれている。

そんな同社は、主力商品ジグヘッドの受注が増加し、マンパワーが不足しつつあった。そこで製造が手作業のオモリ製造について自動化する機械を開発し、ジグヘッド製造に人員を回したいと考えていたところ、顧問税理士から小規模事業者持続化補助金を紹介され、丹波篠山市商工会の支援がスタート。ジグヘッドの製造工程を見直し、機械化に向けた機械開発資金や手狭になった工場拡大の資金調達も必要だった。

## 支援

### 計画の「見える化」とともに 各種施策で支援を実施

これまで申請書や事業計画を作成したことがなかった同社に対し、商工会は経営計画と補助事業計画書についてヒアリングを重ねた。着手したのは、計画の「見える化」。これにより、取り組みの効果が明確になり、経営革新計画の申請では、オモリ自動鋳込み機による納期短縮やコスト削減策について効果を明らかにすることができ、平成27年に承認された。

だが、ジグヘッド増産のための機械開発については、持続化補助金を3回申請するが、販路開拓の事業とは認められず、不採択が続いた。そこで、機械開発については経営革新計画の承認により信用力を上げ、兵庫県信用組合からものづくり補助金申請を含めた資金調達の提案をもらい、新たに経営力向上計画と経営革新計画を申請。工場拡大資金は、平成29年にマル経制度を利用し、空き工場へ生産拠点を移転した。



同社が製造するジグヘッド（上）と疑似餌（下）

一方、同社は、北海道の漁法で使う漁具「三角バケ」の開発を釣具問屋から依頼される。それは、プラスチック成型と鋳造の両方の技術をもつ同社にピッタリの製品だ。そこで、この開発自体をPRに利用できると提案。平成30年に小規模事業者持続化補助金の申請を支援し、採択された。

その結果、支援前の平成25年度に比べ、平成28年度決算は売り上げ35%増、経常利益255%増となり、取引先も2社増えた。同社は「将来はマシニングセンタを導入して金型製造を内製化し、収益を上げてオリジナル商品の開発も」と意欲を見せている。

#### 支援の経過

期間	支援内容
H26年4月～	新たな取り組み支援（持続化補助金）
9月～	信用力と資金調達力の強化（経営革新）
H29年3月～	設備投資融資（工場移転）
5月～	経営革新計画、ものづくり補助金の支援
H30年3月～	新たな取り組み支援（持続化補助金）

#### 会社概要

会社名：有限会社東雲化工  
住所：兵庫県丹波篠山市西八上266-1  
電話番号：079-554-3400  
URL：https://shinonome3.co.jp/  
代表者名：取締役 榊山直樹  
創業年：昭和55年  
年間売上高：3650万円（平成30年）  
従業員数：4名  
商工会名・担当者名：丹波篠山市商工会・北島篤